

岐阜県嚥下障害研究会 モグモグ通信 No. 7 (2006. 9 発行)

10月29日の
学術講演会
に皆さん、ご
参加下さい
ね。お待ちし
てま〜す！



発行所: 岐阜県嚥下障害研究会
事務局: 木沢記念病院 ST室

3つの-お-団-子-



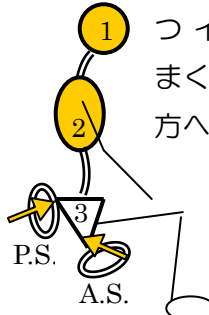
岐阜県立希望が丘学園 作業療法士 田本 朋巳

「姿勢保持」という領域においても、ここ数年の間に随分とその考え方に变化と進歩が伺えます。一昔前なら“座れたらよし”程度のものでしたが、現在はより快適に過ごしていただくという“利用者本位の姿勢作り”へと進化・発展してきています。その中でも特にキーワードとしてあげられるのが、『骨盤サポート Pelvic Support』と『アンカーサポート Anchor Support』、これら2つの用語です。

そもそも人体というのは 多くが釣り合い関係の中でうまく機能する仕組みになっており、そのベースとして「重力環境下で いかに自分自身を程よく安定させ、かつ いかに動きに楽に対応できるか?!」という筋活動の協調性が求められています。

身体構造的にも、安定性の優位な3つの塊(頭部・胸郭・骨盤)と 動きに対応しやすい部位(頸部・腰部・上肢・下肢・下顎・眼球など)とがうまく協調し合いながら、諸活動を保障してくれています。

しかし、ここで問題なのが 3つの塊(お団子)の



中で一番下に位置する骨盤の(下に凸で かつ イビツな)側面の形状であり、筋肉がうまく引き合わなければ たちまち骨盤は後方へ倒れ込み、身体全体の釣り合い関係も根底から大きく崩れてしまいます。

この問題への対応策として、先ほどあげた骨盤サポートやアンカーサポートの概念に基づいた『骨盤の後方への倒れ込みを軽減させる背もたれ』や『骨盤の前方への滑り出しを防止する座面』が 近年製品化されるようになりました。車椅子類についても、これまで多く使用されていた布張り式の背もたれや座面に替わって、ベルクロのバンドを幾本も張り渡した『張り調節機能付きの車椅子』が主流となってきています。この車椅子は大変お奨め品なのですが、すぐには買い替え不能な方も多いでしょう。こんな場合には シート地の下に市販のベルクロテープを1本 取り付けるだけでも 意外と効果はテキ面です。工夫とアイデア次第で 利用者さんの潜在性と可能性をぐんと引き出すことのできる姿勢保持の世界、ぜひ一度足を踏み入れ 体験されてみて下さい。

成人勉強会 レポート



初めて 発表しました・・・。

山内ホスピタル 言語聴覚士 鈴木 勝

私が 山内ホスピタルに着任した平成15年度より、岐阜県嚥下障害研究会には参加させていただいております。そして これまで聞く側ばかりでしたが、平成17年度第5回成人勉強会「症例検討会」にお

いて 初めて発表させていただきました。

発表するにあたり、症例を振り返りながら資料を作成する中で、果たして患者様に対して最適な訓練を行ってきたのか、また、関連職種との連携が上手く取れていたのかなど、自身の臨床を振り返るよい機会となりました。

発表症例は 球麻痺の患者様で気管切開をされて

おり、嚥下機能の評価から判断が難しい症例でした。また、主治医との連携・協力も不十分で、かつ 当時 ST が私一人ということもあり、周りに相談することも難しい状況で、悩みながら嚥下訓練を行っていました。

発表する順番が近づくにつれ 緊張度は増し、手が震えるほどになっていましたが、何とか成人勉強会で方向性を見つけたいと思っていましたので、いざ発表の時を迎えると吹っ切れたように話をする事ができました。私の発表に対し、豊島先生をはじめ参加者の方々から温かい助言や指導を受けることができ、とっても得るものが多かったです。いつもは

聞く側でしたが、今回は発表者ということもあり、ご指導いただいたこと全てを主体的に考えることができました。

ご指導いただいたことを次につなげ、嚥下機能の向上を通して食べることの喜びを患者様に再認識していただけるよう、最善を尽くしていきたいと思います。今後も積極的に成人勉強会に参加し、わからないことがあれば質問したり 症例検討に出したりと、自身の知識や技術の向上にさらに努力していきたいと思います。

（3月25日、84名参加。発表者：加藤孝憲 ST、田水陽子歯科衛生士、磯野恵子 ST、鈴木 勝 ST）



講師の先生方
(左より 海老子・斉藤・溝口氏)

食事は、楽しく！そして安全に・・・

岐阜県立岐阜希望が丘養護学校 教諭 後藤 明美
第17回勉強会『おいしく 楽しく 食べるために～口腔機能と栄養・食形態・調理の工夫』に参加しました。豊田市こども発達センターの管理栄養士、作業療法士、歯科衛生士の三人の先生方からお話を聞くことができました。

豊田市子ども発達センターでの先生方の連携のすばらしさに感動しました。一人のお子さんの発達をみんなの目で確認しながら、認め合いそして高めていくためのきめ細やかな配慮や工夫・・・



一番驚いたことは、お子さんの食べる機能を促すために、食事形態が5段階（ごっくん食、もぐもぐ食、かみかみ前期食、かみかみ後期食、ぱくぱく食）



に調理されていることでした。同じメニューでも、段階に応じて食材や調理法を変えるなど手間と時間をかけてよりおいしく食べるために工夫されていました。そして、講義の後 実際に調理された物を試食させていただきました。飲み込みやすさだけでなく、どの段階の物もおいしく食べられる物ばかりでした。やはり、食べるためには、「おいしい！」ことが大切です。

食べるためには、口腔機能と口腔疾患をしっかり把握し、食べる時の姿勢や食事形態が よりお子さんの状態に合った時に、初めて おいしく食べることができるのだということを再確認することができました。そして、子どもたちの発達を促すためにも、職員のチームワークが大切だということも学ぶことができました。

食べるためには、何が大切なのかを学び、そしておなか也大満足な勉強会でした。講師の先生方、スタッフのみなさん、ありがとうございました。

（5月26日開催、参加者64名。試食会を交えて食形態・調理法の実際についてじっくりと学ぶ・・・）

— 学術講演会だより — お蔭様を持ちまして 8月末現在で 事前参加申込み者数は70名ほどに達しております。なお、9月末迄に 参加お申込みいただいた方には、10月中頃 抄録や諸案内を 事前送付いたします。どうぞ お早めに申込み下さい！

